

仙北市角館伝統的建造物群保存地区 昭和51年に栄えある伝統的建造物群保存地区の第一回目の選定で、萩、妻籠宿、白川郷などと並んで選ばれました。この制度は歴史的な建造物であっても1軒2軒の建造物ではなく、地域として昔の風情が残るエリアが対象です。



角館祭りのやま行事

古くは別々に行われていた、町の鎮守である神明社と産土である薬師寺の祭りが、明治初期から連続して行われるようになりました。薬師如来が農耕の神である「山の神」から「田の神」に姿をかえて豊作をもたらしたあと山に帰るといふ信仰から、神の依代として担ぎ山を始めたのがやまの起源のようです。このように地域に根付いた祭りであること、神事の伝統的な形式が残り保存されていること、やまで演奏される「おやま囃子」、丁内から全権を委ねられた「年番」、曳山を運行する「若者」、監督役の各町内の「張番」が保存されている価値が認められ、文化財に指定されました。



角館のシダレザクラ 約350年前に京都からお輿入れした佐竹北家2代義明の正室の花嫁道具に入っていた3本のシダレザクラが始まりと伝えられていること。町内に群生していること。エドヒガン系のものが北国に群生していることは希少なことから現在162本が指定されています。

檜木内川堤(サクラ) 天皇誕生の記念に、400本あまり約2キロメートルにわたるソメイヨシノが植樹されたことなどから名勝に指定されました。川堤にトンネル状になっているのも稀少だといえます。



町割絵図 享保時代の角館の地図。内町(武家町)と外町(町人町)が火除けによって区分されているのがわかる。

角館の特徴と言える、祭り、武家屋敷を始めとした町並み、シダレザクラなどの古木、気質、たしなみななどは、先人から引き継がれたものが多いようです。多くの観光客が訪れるのも、こうした昔の風情に惹かれてのこと。一朝一夕には出来ないこの風情は、多くの先人の功績が積み重なったものです。約四〇〇年前に芦名氏によって造られた町割りを基盤に、佐竹氏(北家)が文化、産業、学問を奨励し、人を育てました。文化好きの気風は人から人へ受け継がれ、江戸、明治、大正昭和と、家塾や郷校、文化サロンなどを中心にその時代の文化をつくりました。

その時々々の秀作、力作、歴史の一ページが文化財として町のあちらこちらに残っています。

# 歴史的な風情は角館の宝 先人の気概が文化財に

地域の輝き  
磨く人たちの魂  
おらほノ魂

特集 第9回

# 角館地域

歴史と文化のまち、角館。長い時の間の中に一生懸命に励んだ先人の仕事と情熱が点在しつながっています。角館に数多く残る文化財を通して見えてくるのは先人たちの偉業の数々。つくった人へ、守った人へ感謝を込めて、その文化財の一部をご紹介します。



岩瀬風景図 大正七年に西宮礼和が描いた岩瀬の風景。旧時代の岩瀬街道を偲ぶことができます。写真中央の杉林の丘は神明社、その左は天神山、その右は玉川の船着き場と呼ばれたところ。道路をはさんで小館の役所、街道の右端は下岩瀬町境門、門の前に湯殿山の石大石碑、後方は小館、小倉山・太平山・西長野の三角山、遠くには鳥海山も望めます。

# 感動は自己流に 文化財は空想の ワンダーランド

昭和二十年代後半に、白岩焼、樺細工などの工芸品が秋田県から指定を受けたのが角館の文化財の始まりです。その後、昭和四十九年シダレザクラ、檜木内川堤(サクラ)、伝建群と国に指定されます。これらの指定には各保存会の活動が貢献しています。

文化財といってもいろいろなものがあります。伝建群のように暮らして溶け込んでいるもの。家庭の中で大切に保管されてきたもの。歴史資料として価値のあるもの、技術が優れているもの。昔のものを大切に作る町民性のお陰か、相当数の文化財があるのも自慢のひとつ。それぞれの文化財をつなげてみると、昔の角館の姿が想像できます。



「花葉集」佐竹北家7代の当主佐竹義文が江戸から帰る途中の珍しい草花を押し花にしたもの。

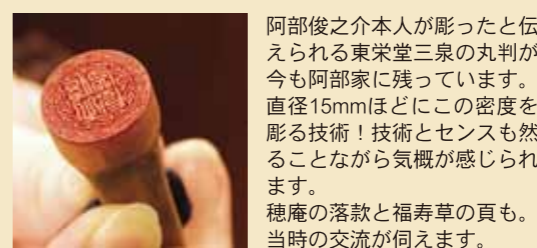


安永3年(1774)に刊行された「解体新書」。郷土の画人小田野直武が挿絵を描きました。

## 文化財 ニューフェイス NEW FACE

### 印判が語る角館のあの日 東栄堂三泉の印譜帳

昨年の秋に仙北市に文化財指定された「東栄堂三泉の印譜帳」。嘉永六年(二八五三)〜明治二十一年(二八八八)に東栄堂三泉と名乗った彫士・阿部俊之介が、注文のあった判子の控えを綴った三冊です。判子ひとつから当時の様子が、幅広く奥深く想像でき、多方面の時代考証の資料になると評価されています。角館はもちろん山形、北海道からの注文もあり、広く顧客を持っていたことも伺えます。



阿部俊之介本人が彫ったと伝えられる東栄堂三泉の丸判が今も阿部家に残っています。直径15mmほどにこの密度を彫る技術！技術とセンスも然ることながら気概が感じられます。穂庵の落款と福寿草の頁も。当時の交流が伺えます。



立体の造形にすぐれた寺沢角太郎作、樺細工「馬」



最古の白岩焼、松本運七作の「白岩焼角皿」

### 角館の文化財一覧(所在地角館)

- 国指定**【重要無形民俗文化財】角館祭りのやま行事【名勝】檜木内川堤(サクラ)【天然記念物】角館のシダレザクラ162本【重要伝統的建造物群保存地区】仙北市角館伝統的建造物群保存地区【登録有形文化財(建造物)】旧角館製糸工場【登録有形文化財(建造物)】渡邊家住宅主屋
- 秋田県指定**【有形文化財(建造物)】旧松本家住宅主屋【有形文化財(工芸品)】白岩焼角皿、染付磁器荒川尻焼大皿、刀 銘天野河内助藤原高真作、古瀬戸鉢・青磁碗(明代)【有形文化財(書籍・歴史資料)】花葉集(上下)【有形民俗文化財】古樺細工【無形民俗文化財】下川原さら【史跡】旧青柳家武家屋敷、岩橋家武家屋敷
- 仙北市指定**【有形文化財(建造物)】安藤家煉瓦造蔵座敷、七面堂、旧芦名家兵具庫【有形文化財(絵画)】秋田蘭画、花下美人図絵巻、大威徳明王像絵巻、岩に葵園、郭子儀、岩に百合園、桑摘み、海鶴蟠桃の図、花鳥図(鶏・双鳩・鹿)、岩瀬風景園、墨竹、西玉母、角館の四季、見物席、小倉山、晴れた海、武家屋敷、愛染明王、岩に牡丹に小倉園、花鳥図、木槿の頃、孔雀、山静日長、古城山、天井絵「雲龍図」【有形文化財(工芸品)】刀剣2口、黒釉かめ(刻印二瀬)、掛流火留(刻印イ直)、菊紋かめ(刻印口亀)、なまこ釉切立(刻印八吉)、葡萄葉文かめ(刻印宝夕)、小豆辰砂尊、刻線幾何文蓋付かめ(刻印八鉄)、荒川尻焼 恵比寿人形、樺細工 油煙形鞘入四段印籠、樺細工 置物「馬」、樺細工 白鳥皮平形二段印籠、樺細工 無地皮眼鏡入、樺細工 銀皮平形二段印籠、樺細工 置物「牛」、報身寺梵鐘(浄国山鐘)、青銅阿弥陀如来坐像【有形文化財(書跡・典籍)】短歌掛軸 双幅【有形文化財(古文書)】烏帽子於也、解体新書、角館屋敷割絵図、御新方御備絵図、一切経、箭田野家文書【有形文化財(歴史資料)】傘型連判書、御手鑑、装束裂、東堂三泉「印譜帳」【有形民俗文化財】古樺細工、谷地町さら獅子頭【無形民俗文化財】角館の火振りかまくら【記念物(史跡)】石黒家、河原田家、小田野家、陶家門・脇堀・生垣、天寧寺山門、常光院本堂、芦名氏墓、古城山城跡(角館城址)【記念物(天然記念物)】姥杉、姥桜、岩橋家のカシワ

「伝統文化から学べる社会や道徳は多く、角館という恵まれた環境を生かした教育したい」と佐藤康裕校長先生。

## 角館小学校

### 「桜の町の案内人」など、 地域文化をフィールドで体験！



角館小学校は平成二十年に角館東小学校、角館西小学校、西長野小学校が統合して開校しました。現在、全学年それぞれが三クラス、全校生徒数は五二〇人です。

地域の伝統文化や産業でもある観光に触れる学習にも力を入れています。四年生の授業で十年ほど前から行われている「桜の町の案内人」は、実際に観桜期に角館を訪れた観光客に観光案内をするものです。

子どもたちは役割分担して総合的な学習時間で、話し方の練習をした後、二日間、実際に案内人を努めます。もうひとつ、六年生が社会科で学んでいる室町時代の歴史。これを実際に体験しようと、石黒恵家で、茶の湯体験授業も行っています。



## 角館まちづくり地域運営体 町なかにも本格的な拠点をつくり、 勢いよくスタート

仙北市の九番目の地域運営体「角館まちづくり地域運営体」(小林都男会長)が先年十一月に生まれました。発足は遅れましたが、用意周到の組織づくりで勢いよくスタートダッシュし、地域のお助け隊の活動を始めています。旧角館町五十四丁内から二人の幹事を選出、町内ごとに課題などをアンケートで集め、東・西・南・北・中央のブロックごとに集約して、来年度はブロックごとの地域づくりに生かします。

「大きな特徴は、町なかにも活動拠点を用意したこと。町なかだからできる明るい事業をどんどん進めます」と、本格的な活動開始に向けて熱意の事務局でした。



岩瀬町旧ソニックにオープンした活動拠点。パソコン、テレビ設置でたまり場にもなりそうです。



歴史案内人から学ぶ本格的な案内人学習を経て、実際に観光客が訪れる武家屋敷や檜木内川河川敷にてかけます。



除雪支援隊は85人でスタートしました。



ミニコミ「まち角通信」は次号から、入会している1881世帯に配布されます。



上限700円の高齢通院者タクシー補助チケットが人気です。

